



ホリデーチップ

北陸銀行 国際部
ニューヨーク駐在員事務所
内間 洋子

年末年始に行われる習慣には、国によっていろいろな違いがあります。アメリカでは個人や企業の日常生活がスムーズに運ぶよう、身の回りの様々な場面でサポートをしてくれる人々に対し、一年の感謝を込め、日本のお年玉的なホリデーチップ(現金)を渡す習慣があります。

マンハッタンの大規模賃貸アパートに住んでいる場合を例としてあげると、一階のロビーで人の出入りの監視、来客対応、タクシーの乗り降りなどを手伝うドアマン、アパート内の修理をするハンディーマン、またビルの地下にある駐車場の管理人、宅配荷物の管理人、清掃員など、アパートで働く人々に対し、各世帯から、一人当たり平均で25ドル(約3,250円:1ドル130円換算)のチップが渡されます。(スーパーなどに売られている、専用のギフト用封筒に入れて渡す場合が多いです。)



各部署には何人もの担当者がいるため、総勢20~30人になることもあり、チップも総額5~10万円近くになり、住人にとっては大変な負担になります。ちなみに、ニューヨークのドアマンの年俸は、組合によって上限が44,000ドル(5,720,000円)と抑えられています。しかし、仮に300世帯が入居するアパートで働いている場合、彼らのホリデーチップ総額は100万円近くとなり、非課税のボーナスとして受け取ることができます。

子供がいる家庭では、通い又は住込みのベビーシッターや家政婦に、給与2週間分(通いの場合3~6万円、住み込みの場合8~12万円)に加え、ブロードウェイショーのチケットや子供からのギフト等を添えます。ここ数年の新型コロナウイルスの流行により、質の良いベビーシッターを確保・維持するのが大変難しくなっており、気に入った人材を高額なホリデーチップで繋ぎとめようとする傾向があるそうです。

その他にも、家庭教師、美容師、ペットのグルーマー、ドックウォーカー、パーソナルトレーナーなどに、普段のサービスの一回分の料金をホリデーチップとして渡します。

オフィスビルも例外ではなく、各入居企業が、ビル管理人、警備員、エンジニア、清掃員などに、それぞれ20ドル程を渡します。

これらを総計するとかなりの金額になり、多くの人々にとって頭の痛い季節です。そのため、各メディアでは、何時、誰にいくら渡すのが妥当なのかをテーマに、毎年特集記事が組まれるほどです。ホリデーチップはあくまでも習慣であって、義務ではないのですが、ニューヨーク地区の調査によると、金額の差こそあれ、賃貸アパート及び分譲マンションの住人の95%以上がこの習慣に準じているそうです。もしもこの習慣を無視してホリデーチップを渡さないと、ビルへの出入りや、次回サービスを受ける際に気まぐずくなるのも現実です。

今年は、ウクライナ戦争による原材料の調達、生産、物流などの供給網の問題もあり、ガソリン代、家賃、食品価格が凄まじい勢いで上昇しています。6月のインフレ率(CPI)は9.1%と、過去40年で最高を記録しましたし、直近の11月もやや下がったとはいえ7.1%と未だ高い水準です。一方で、ホリデーチップを渡す側の所得はインフレ率ほどには増えていないため、昨年より一人当たりの金額を減らしつつも、より多くの人々に感謝を表し、出費を抑えることを提案するメディアも多く見られます。



労働省データより ニューヨーク駐在員事務所作成

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用いただきますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp